



No. 107

「みことばを読むことの大切さ」

日本同盟基督教団理事長 世田谷中央教会主任牧師
日本福音同盟理事長 一般社団法人福音讃美歌協会代表理事

安藤 能成

「このユダヤ人たちは、テサロニケにいる者たちよりも良い人たちで、非常に熱心にみことばを聞き、はたしてそのとりかどうかと毎日聖書を調べた。」(使徒の働き 17 章 11 節)

教会において聖書の解き明しである説教を聞くことだけでなく、自分で聖書を開いて読むことも大事であることが冒頭の聖句で教えられます。また自分ひとりで読むだけでなく、誰かと一緒に読むことの大切さも教えられています。独りよがりにならなくて済みますし、互いに教えられたことを共有することによって、自分だけでは理解できなかったことや考えが及ばなかったことにも気づかされます。

私たちの信仰生活は神のみことばを摂取することなしには成り立ちません。自分の信仰が本当に正しく成長しているかということも聖書に照らしてみなければ判断できません。今の終末的時代は真理から少し外れたところに迷い込ませようとする異端的な教えもはびこります。それはおいしそうに見える果実のようです。教会は使徒たちの時代から絶えずその危険にさらされてきました。その危険から守られる唯一の方法は正しく聖書を読み、その教えに従って歩むことです。神のみことばに耳を傾け、それを読まなければ信仰生活から離れるのは必然です。主イエス・キリストは言われます。

「わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。」(ヨハネの福音書十章二十七節)

「聖書を読む会」のテキストは聖書を読むための良い手引です。私が所属する教会ではこのテキストを用いて、多くのグループが集まっています。とても楽しそうに聖書を学んでいます。私は直接参加していませんけれども、その様子は見えています。時間を忘れて話合っています。読む会が終わって帰るときみなさんの顔は明るく輝き、声は弾んでいます。教会がいのちに満ちているか、いないかの違いは、集まっている人たちが聖書を読んでいるかいないかによると言えます。それは教会のそれ以外の活動にも及びます。